

インフルエンザワクチンの予防接種を受けられる方へのご説明

[ワクチンの効果と副反応]

予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くすることができます。また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。副反応は一般的に軽微です。注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがあります。通常は2～3日で消失します。全身症状としては発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、下痢、関節痛、筋肉痛なども起こることがありますが、通常は2～3日で消失します。過敏症として、発しん、蕁麻疹、湿疹、紅斑、かゆみなどもまれに起こります。強い卵アレルギーのある方は強い副反応を生じる可能性がありますので必ず医師に申し出て下さい。非常に稀ですが、次のような副反応が起こることがあります。(1)ショック、アナフィラキシー様症状(蕁麻疹、呼吸困難など)、(2)急性散在性脳脊髄炎(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など)、(3)ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)、(4)けいれん(熱性けいれんを含む)、(5)肝機能障害、黄疸、(6)喘息発作。このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出て下さい。なお、健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人、または家族が独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

[予防接種を受けることができない人]

①明らかに発熱のある人(37.5℃を超える人)、②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人、③過去にインフルエンザワクチンの接種を受けて、アナフィラキシーを起こしたことがある人(なお、他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした人は、接種を受ける前に医師へその旨を伝えて判断を仰いで下さい)、④その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人。

[予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人]

①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人、②発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人、③カゼなどのひきはじめと思われる人、④予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発しん、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人、⑤薬の投与又は食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発しんが出たり、体に異常をきたしたことがある人、⑥今までにけいれんを起こしたことがある人、⑦過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことがある人、⑧家族、友人のあいだに麻疹、風疹、水痘、おたふく風邪などの病気が流行しているときで、まだその病気にかかったことのない人、⑨妊娠の可能性のある人、⑩気管支喘息のある人。

[ワクチン接種後の注意]

①インフルエンザワクチンを受けたあと30分間は、急な副反応が起きることがあります。医療機関にいるなどして様子を観察、または医師、救急病院とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう、②接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう、③接種当日は、接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう、④万一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けて下さい。

[予防接種を受けるときの注意]

①インフルエンザワクチンの必要性や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう、②予防接種を受ける方がお子さんの場合、母指手帳を持っていきましょう、③5歳以上のお子さんで、ワクチン接種時に安全な姿勢を保持できないと判断された場合(激しく暴れ、医師、介助者に危害が及ぶケースなど)はワクチン接種を中止します。なお5歳以下に於いても上記理由にてワクチン接種を中止する場合があります。